

花巻酵素で

出来ます

「食味がよい」有機米栽培法

有機 JAS 規格適合



自然育苗用土



自然育苗養分



水稲用ユキパー



ライズ



「食味がよい」有機米栽培法 〈目次〉

- ・ 苗半作編－育苗土、種もみ準備
- ・ 苗半作編－有機育苗
- ・ 本田施肥編－有機元肥・有機追肥
- ・ 健苗育成編(補足)－根張り促進
- ・ 土づくり編(補足)－稲わら・もみ殻すき込み
- ・ 《早見表》・製品の有機栽培への効果・使用時期
- ・ 有機米栽培暦
- ・ 有機米栽培 抑草・除草技術

有機栽培・自然栽培は
稲本来の遺伝特性を100%
引き出せる農法です!

全国土壌改良資材協議会員

製造元 有限会社花巻酵素

〒025-0001 岩手県花巻市天下田 48-4

TEL0198-24-6521 FAX0198-24-2528

URL <http://www.hana-ko.co.jp/>

「食味がよい」有機米栽培法

苗半作編 育苗土、種もみ準備

育苗土の選択

水持ちが良く、透水性が良いもの。
有機質成分をほとんど含まないもの。
化学肥料、農薬成分を含まないもの。
粘質性が弱く砂質が強い場合は保肥力が弱いので育苗中の肥料切れに注意します。

◎育苗土を自分で採取する場合は山土が最適です。畑の土は病原菌の心配がありますので育苗土には出来るだけ使用しません。あえて使用する場合は消毒を完全に行います。



【苗半作】昔から苗の生育状態で農作物の出来具合の半分が決まるといわれております。

育苗土の消毒

病原菌の殺菌

自分で採取した育苗土は薬剤を使用しない方法で必ず消毒を行います。消毒後は育苗に使用するまで雨や雪に当てないように清潔なポリ袋・フレコン等で保管します。

[消毒の方法]

- 日光消毒後にできるだけ乾燥する。
- 火力で焼成処理する。
- 市販の焼成培土(火力により消毒済のもの)はそのまま使用できる。※ただし有機JAS規格に適合するか製造元に確認が必要です。

種もみの塩水選

充実した種子の選別、もみ枯細菌病・馬鹿苗病対策

従来の比重 1.13 ではなく 1.15 から 1.17 の強選別にして、より重く充実していて病気に強く丈夫な苗になるもみを残します。

比重 1.15 (水 10 リットルに塩 1.88kg の割合)

比重 1.17 (水 10 リットルに塩 2.09kg の割合)

※塩水選後に時間をおいて温湯種子消毒をするときは水洗いして完全に乾燥させて低温(15℃以下)で保存します。



温湯種子消毒

馬鹿苗病等の病気対策

病原菌は死滅するが種もみには影響がない程度のあまり高くない温度のお湯に種もみを浸して殺菌処理をします。塩水選後に水洗いしてすぐ行います(30分以内)。

温湯種子消毒 : [60℃の温湯に種もみを 10~12 分間浸漬]

※温湯種子消毒後すぐに芽出ししないで保管する場合は乾燥させて低温(15℃以下)で保存します(1~2週間が限度)。保存中は地面、未消毒種子、もみ殻、稲わら、土や埃のついたゴザ・シート等の雑菌が付着しているものと接触させないようにします。

※温湯種子消毒で種もみのもみ殻割れを防ぐには一旦乾燥させてから行います。

「食味がよい」有機米栽培法

苗半作編 有機育苗

「自然育苗用土」「自然育苗養分」で有機育苗

育苗は有機肥料による有機育苗を行います。

育苗の初期（硬化期の初期～1.5葉期）から全面湛水状態で育苗する“プール育苗”は病気の対策に大変有効です。病気の伝染も防ぎます。

自然育苗用土 **そのまま苗箱に使用する製品です。**

自然土に発酵させた有機質(自然育苗養分)を配合した稲のための床土です。化学的な成分は全く含んでおりませんので有機JAS規格に適合します。有機質ながら即効性がありますので初期成育が良好で根はりが良く丈夫な苗に育ちます。また肥効の持続性もありますので追肥もほとんど不要です。有機米の丈夫な苗づくりに最適です。

【重量/苗箱枚数】 重量：20kg(変動があります)
苗箱枚数：7枚分(覆土除き)
(※覆土にも使用しますと6枚弱分です)



自然育苗用土
20kg、粉状、粒状混合

自然育苗養分 **床土に混ぜる発酵済の有機肥料です。**

自然育苗用土に配合しているものです。大豆かすを主体にした有機質をライズ菌(当社独自の複合発酵菌)で発酵させた有機質(ぼかし肥料)です。特殊肥料。有機JAS規格に適合します。別途お客様が用意した自然土と混合して使用します。自然土と自然育苗養分を9:1で混合したものは自然育苗用土と成分および使用方法が同じになります。

育苗用に特に即効性を高めておりますので追肥にも適しております。

【重量/苗箱枚数】 重量：12.5kg
苗箱枚数：48枚分(一枚当り 260g)



自然育苗養分(自然土混合用)
12.5kg、顆粒状

=> **自然育苗用土**と**自然育苗養分**の成分、使用方法等の詳細は「自然育苗用土・自然育苗養分 使用説明書」をご覧ください。

「食味がよい」有機米栽培法

本田施肥編 有機元肥・有機追肥

「水稲用ユキパー」で有機元肥・有機追肥

本田では有機肥料による有機栽培を行います。

水稲用ユキパー 魚かす主体の有機 100%の原料を当社独自培養のライズ菌で完全発酵させた有機特殊肥料です。ほかし肥ともよばれます。有機JAS規格に適合します。

水稲用ユキパーは発酵処理済なので即効性があります。元肥と追肥に使用でき、食味がたいへん良く、肥料効率が高いので倒伏対策にもなります。他の肥料を全く使用せず、稲わら・籾がらのすき込みと水稲用ユキパーだけで稲の栽培ができます。

元肥全量に水稲用ユキパーの使用をお勧めしますが、元肥に他の有機肥料をご検討の場合は元肥の全窒素量の30%以上を水稲用ユキパーでご検討ください。水稲用ユキパーの即効性が稲の分けつ促進に効果を発揮します。



水稲用ユキパー
15kg、粒状(粉状も有)

追肥(増収)できる有機肥料 一般に有機肥料は遅効性のため追肥に使用すると肥料の遅効きで稲に肥料成分が残り食味を落としたりしますが、水稲用ユキパーは即効性のため食味を落とさずに適期に追肥できる画期的な有機肥料です。

魚粉主体、即効性、有機元肥、有機追肥、持続性、完全発酵、十分なリン酸分、発酵菌が生きている、アミノ酸効果

【重量/成分】重量：15kg、粒状(粉状も可) 窒素 6.0% リン酸 4.0% カリ 0.9%

【施肥量】元肥：6～8袋(1袋当り窒素0.9kg、各地域の施肥基準に従ってください。)

追肥(分けつ肥・穂肥・実肥)：各1～2袋

=> **水稲用ユキパー** の使用方法等の詳細は「水稲用ユキパー パンフレット」「水稲用ユキパー 説明書」をご覧ください。

「食味がよい」有機米栽培法（補足）

健苗育成編 根張り促進

「ライズ」で健苗育成－根張り促進

育苗の床土にライズを2%混合しますと根張りのよい丈夫な苗に育ちます。混合する方法以外にライズを床土表面へ均一に散布してかん水で浸透させる方法もあります。

ライズ 微生物資材です、肥料・堆肥では有りません。有機質材料及びカルシウムやケイ酸などのミネラルを豊富に含んだ新生代貝化石にライズ菌(乳酸菌、麹菌、酵母、放線菌、糸状菌などの有効微生物)を長時間培養し微生物・酵素活性を高めたものです。有機JAS規格に適合します。

ライズは発酵したケイ酸(コロイド状－植物への吸収効率が大変良い)を26%含んでいます。特に稲にとってケイ酸は窒素・リン酸・カリと並ぶ大変重要な成分なので稲はライズの効果が大きい作物の1つです。

【ライズ混合量】床土 18%にライズ 360cc(2合) 《混合後直ぐ播種が可能》
苗箱当りライズ 50～60g、ライズ1袋で苗箱約 250 枚分

ライズ使用
《根張りが良い》



ライズ未使用



ライズ
15kg、粉状又は粒状

土づくり編 稲わら・もみ殻すき込み

「ライズ」と一緒に稲わら・もみ殻をすき込んで土づくり

ライズ 秋か春にライズを散布して稲わら・もみ殻をすき込んで土づくりをします。もみ殻は貴重なケイ酸源です。

効果① 稲わらのワキを抑えます。

効果② 稲わら・もみ殻が早く分解して地力が上がるために稲が元気に育って米の食味がよくなります。

効果③ 稲わら・もみ殻に含まれている吸収されやすいケイ酸を土壤に還元します。

稲わら・もみ殻・ライズから供給されるケイ酸の量(10a 当り)
稲わら収量 700kg(ケイ酸成分 13%、91kg)
もみ殻収量 145kg(ケイ酸成分 20%、29kg)
ライズ施肥量 30kg(ケイ酸成分 26%、7kg) 合計ケイ酸 127kg

水稻へのケイ酸の効果
イモチ病抵抗性の増加、倒伏の防止、葉の受光体勢の改善、収量の増加、高温・低温・日照不足対策

【施肥量】ライズ 2 袋 (30kg)

=> **ライズ** の使用方法等の詳細は「ライズ パンフレット」、ライズ水稻関係説明書をご覧ください。



「食味がよい」 有機米栽培法 《早見表》

効果

製品	食味	収量	健苗	耐病性	わら・もみ殻分解	土づくり
育苗用有機肥料 自然育苗用土 自然育苗養分 			◎	◎ 苗半作		
有機肥料 水稲用ユキパー 	◎	◎		◎	△	○
ケイ酸質微生物資材 ライズ  ※ライズには肥料成分がありません	◎	○	◎	◎	◎	◎

◎効果大きい ○効果がある △ライズより弱い効果あり

使用時期

製品	春耕	育苗	元肥	追肥	秋耕
育苗用有機肥料 自然育苗用土 自然育苗養分 		◎			
有機肥料 水稲用ユキパー 			◎	◎	
ケイ酸質微生物資材 ライズ  ※ライズには肥料成分がありません	◎	◎		◎	◎
有機米栽培のポイント は稲が本来備えている耐病性などの特性を、育苗から本田までの栽培管理でいかに引き出すかです。 【種もみの選別・温湯種子消毒・床土の消毒・薄蒔き・プール育苗・育苗の温度管理・疎植・水管理・除草・収穫後の「稲わら」「もみ殻」の土壌還元・土づくり】	ライズは春耕か秋耕のどちらかに使用。	自然育苗用土・養分にはライズ不要。	水稲用ユキパーは代かき前の施肥が一番効果的。速効性なので深くはすき込まない。	肥料過多の場合ライズ散布で消化を促進。 稲株を丈夫にしたい時や徒長を抑えたい時にライズ散布。	ライズは秋耕か春耕のどちらかに使用。

◎使用する時期

有機米栽培暦「食味がよい」有機米栽培法

栽培暦	3月	4月			5月			6月	7月	8月	9月	10月	
	春 耕	種 子 消 毒	催 芽	播 種	育 苗	施 肥	代 掻 き	田 植 え	米 ぬ か 散 布	中 干 し	追 肥	出 穂	稲 刈 り
有機栽培の 具体的な作業	春耕	種子消毒	育苗	施肥,代掻き	田植え	雑草対策 (米ぬか除草法)		追肥	稲刈り	秋耕			
		温湯種子消毒 60℃の温湯に10~12分浸して種子消毒	無化学肥料育苗 有機肥料のみで育苗 播種量は少なく ※プール育苗は苗の病気対策に効果あり	無化学肥料栽培 有機肥料のみで栽培 雑草対策は代掻き2回 ※低地力田はリン酸施肥(熔リン,バットグアノ等)	坪当たりの植え株数は少なく	米ぬか除草法 米ぬかのワキで雑草を抑える100kg/10aを田植え直後に散布 N成分 2kg P成分 5kg K成分 2kg		無化学肥料栽培 増収をねらって即効性の有機肥料のみで追肥する ※有機栽培以外でも、追肥を水稲用ユキパーにすれば食味を向上させながら増収。		稲わらともみ殻をすき込んで地力ケイ酸回復・土づくり 多年生雑草の球根等をさらして凍死させる			
花巻酵素製品(有機JAS適合)の使用例	水稲用ユキパー (有機肥料,食味向上)			即効性の有機肥料なので、代掻きの直前に施肥(元肥)				分けつ肥(出穂40日前まで) 穂肥(出穂25~10日前) 実肥(出穂~穂揃期/出穂10日目)					
	施肥量 (10a 当り)			4袋(60kg) N成分 3.6kg P成分 2kg K成分 0.5kg				各1~2袋(15~30kg) N成分 0.9~1.8kg P成分 0.6~1.2kg K成分 0.1~0.2kg					
	ライズ (土壌改良,藁対策,とろとろ層作り,食味向上,青米減少) ■発酵ケイ酸26%含有 稲に効果大	稲わら分解 田のワキ防止 有効ケイ酸補給 稲わらと一緒にすき込み(秋か春,1回)		根張りの良い健苗作り 微生物と発酵ケイ酸が苗を丈夫に (自然育苗用土,養分を使う場合は不要)				※微生物と有効ケイ酸の補給 窒素過剰 茎葉を頑丈にしたい 若干追肥したい 場合に 中干し頃に散布 窒素過剰対策は随時散布		稲わら分解 田のワキ防止 有効ケイ酸補給 稲わらと一緒にすき込み(秋か春,1回)			
	施肥量 (10a 当り)	2袋 (30kg,粒状)		苗土に2%混合、土18%に2合(360cc)				2袋(30kg,粒状)				2袋(30kg,粒状)	
自然育苗用土 自然育苗養分 (水稲専用有機床土) 使用量			自然育苗用土 苗箱7枚/袋(覆土除き)又は 自然育苗養分 苗箱48枚/袋(別途,土と混合)	<p>■この水稲有機栽培暦は食味・安全に重点を置いたものです。収量が落ちる場合もあります。■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲用ユキパー：魚かすを原料にした100%有機のボカシ肥料で即効性があります。 ・ライズ：貝化石に高発酵力の好気、嫌気性の微生物を培養した農業用の微生物資材です。肥料成分無し。ケイ酸26% カルシウム5.5%。土壌の改良、堆肥/緑肥/生ごみの発酵分解促進、ボカシ肥の発酵に使います。 ・作業時期、施肥量等は一例です。詳細は各地域の標準に従って下さい。 ・この例の総施肥量 N6.5kg P7.6kg K2.6kg (K(カリ成分)は稲わらのすき込みを前提。) 									

・米ぬか除草をしないときは元肥の水稲用ユキパーを標準の6~8袋にします。(水稲用ユキパーの1袋当り窒素0.9kg、各地域の施肥基準に従ってください。)

有機米栽培 抑草・除草技術【畝立て耕起+2回代かき+トロトロ層+深水+米ヌカ・大豆カス+機械除草がライズで効果アップ】

[施用量：10a 当り]

(有)花巻酵素 2017.9.22

月	作業	抑草	除草	土づくり(トロトロ層づくり)
1～3	耕起			稲ワラ、モミガラ、稲株をすき込んで土づくり
4～5	荒代かき 3 cm位の水を張って			} <u>2回代かき</u>
	植代かき 荒代の後 10～15 日、 <u>雑草の発芽確認後</u> 、3 cm位の水を張ってトロトロ層(土の濁りの層)を作る	トロトロ層で雑草の発芽を抑制		
	田植 植代の後 2～3 日、植え付け後は深水 6～10～cm	深水管理で雑草の発生を抑制		
	米ヌカ・大豆カス散布 田植後 3～7 日、苗の活着を見て、米ヌカ 80kg(窒素成分 1.6kg)、大豆カス 20kg(窒素成分 1.4kg)(総窒素成分 3kg)	深水管理と米ヌカと大豆カスの発酵で発生する有機酸で雑草の発生を抑制		米ヌカ・大豆カスが元肥になり、さらに土を肥沃にする、トロトロ層の元になる ※有機質なので収穫後も成分はいくらか残る
	機械除草 雑草が見えたら必ず <u>動力除草機</u> (手押し、乗用)で早めの除草	深水管理で雑草の発生を抑制	動力除草機で雑草を除草	
6～7	機械除草 雑草が見えたら必ず <u>動力除草機</u> (手押し、乗用)で早めの除草	深水管理で雑草の発生を抑制	動力除草機で雑草を除草	
8～9				
10 稲刈後の作業	◎ライズ散布 2袋(30kg)			稲ワラ・モミガラ・稲株の分解が促進してトロトロ層がよく出来るようになる 高吸収率のケイ酸約 8kg の施肥
	モミガラ散布 160～200kg(10a 分)			ケイ酸成分で 32～40kg、丈夫な稲・土づくりには大切な資材
	畝立て耕起 耕起しながら培土板で畝を立てる、稲ワラ・モミガラ・稲株をより空気に触れさせて分解を促進する、この分解物が植代かきのトロトロ層の元になる	畝立て耕起による土の乾燥で雑草の種子も乾燥して発芽が抑制される、雑草の地下茎を寒気で凍結させる効果も期待できる		稲ワラ・モミガラ・稲株の分解が進むため春耕起の土づくり効果が大きくなる、肥えた土がトロトロ層の元になる
11～12				